

第2回ものづくり APS 推進機構 PSLX フォーラム技術委員会 議事録

日時：2006年9月6日（水）10：00～17：00

場所：製造科学技術センター（MSTC）第一会議室

出席者（敬称略）

西岡靖之（法政大学）、松川信也（日立製作所）、川内成宏（プロセス経営研究所）、
児玉公信（エクサ）、鈴木健司（三菱電機）、王喜宏（富士電機システムズ）、
玄光男（早稲田大学）、野本真輔（構造計画）、原田騎郎（オーガス総研）、
前田智彦（富士通）、岡宗秀一（製造技術科学センター）、馬場祐人（書記・法政大学） 12名

資料

- ①第1回 PSLX コンソーシアム技術委員会、第1回アドホック会議 議事録
- ②第4部 APS ドメインオントロジ ドラフト3およびPPT資料
- ③第5部標準XMLスキーマの技術ノート
- ④第6部標準RDBスキーマのPPT資料

議事内容

（午前）

（1）技術委員会、アドホック会議の報告

前回の会議の進捗状況が報告された

（2）第4部 APS ドメインオントロジ ドラフト3について

*P.14 ・オントロジ構成要素の関係図について、国際標準からの変更点の確認、構成が検討された
・#Order/#Plan をそれぞれ3つから1つに統一し、新たに#Fact が追加された

*P.8 オントロジによる業務オブジェクトの説明について

- ・業務オブジェクトの関係図について確認された
- ・関係図で結ばれている矢印の意味について定義されていないという意見が出された
- ・パート3の(P.16)図4-2と比べた場合、「受注オーダー」から#Partyに関連付けるのではなく取引先との関係を表す必要があるのではないかという意見が出された
- ・パート3の「受注オーダー」はオントロジであり、受注オーダーに関するすべてを合わせた概念を1つにしたものであるため、パート4で「受注オーダー」だけ取り出して業務オブジェクトとして表現することはできないことについて確認された
- ・表現の原理や法則を明記して、何が共通で何が異なるのか、図で直感的にわかるようにすると良いという意見が出された

→保留事項ということで、次回、再検討することが確認された

*P.17 業務オブジェクトの定義方法について

・集約クラス、導出クラスの違いについて、パート3 P.45 図8-9の在庫情報のクラス図を参考に確認された（→導出クラスは何らかの結果が生成されたものであり、在庫は導出クラスである。集約クラスは他のクラスとの関係づけを表したものである）

(3) 業務オブジェクトの変換方法の規約の PPT 資料について

*スライドの内容を参考にしながら、概要が確認された

*変換の操作事項や禁止事項について検討した

→属性の追加と削除によって自由なクラス生成に近いことができちゃうのではないかという意見が出された

*パート4の全体について、構成や今後の方針について確認された

(午後)

(4) ISA95 での標準化動向の報告

*ISA95 のドラフトに対するコメントについての電話会議の内容の報告が行われた

・ワイルドカードの仕様についてコメントが採用されたこと、Verb の「Process」の削除について採用されなかったことなどについて、経緯が報告された

(5) PSLX と MESX との関係について

*XML ドキュメントに PSLX スキーマ以外のスキーマの XML を入れることが可能かどうか、その場合のモデルとの対応について質問が出された

*PSLX と MES との連携についての議論を行った

・PSLX トランザクションに MES のレシピを含むことができるのかどうかについて

・MES のメッセージの交換について、交換のタイミングや手順について

・階層モデルにおける PSLX と MESX が検討する範囲について

→PSLXとMESXの位置付けについて、次回、検討することが確認された

(6) 第5部 XML スキーマについて

*前回からの変更点について確認された

・本体は PSLX スキーマで、header 要素は property 要素で指定することについて

・業務オブジェクトの種類の変更点と業務プロパティが追加されたことについて

・個別業務プロパティでプロファイル定義の不要なユーザ独自の業務プロパティが指定できること

・ApplicationProfile 要素が追加され、実装されている機能を取得できるようになったことについて

(7) 標準 RDB モデルの検討

*提案された RDB スキーマのテーブル名について一つずつ検討された

・構成に対する E-R 図があると検討しやすいという意見が出された

・設備負荷テーブルと作業指示テーブルのように同一の内容となるテーブルがある

・提案されたテーブルの中にはビューとして表現できるものがあるという意見が出された

*実体テーブルの必要性について検討された

→過去の実績や負荷を蓄積する場合は、ユニークなキーを持つテーブルが必要である

→RDBのテーブルのE-R図を作成し、次回検討することを確認した

次回予定

10月3日 アドホック

11月1日 第3回 (場所未定)

以上